

「COVID-19によってみえてきた臨地実習のエッセンス」  
一般社団法人日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会

## 諸外国の看護学実習の実施状況



JANPU 看護学教育質向上委員会委員

広島大学大学院医系科学研究科

森山 美知子 

## 調査（情報収集）の概要

- 実施時期：2021年1月下旬～3月上旬
- 実施方法：emailで回答を依頼
- 実施対象国・対象者

（International Network of Universitiesの加盟国・大学や国際臨床シミュレーション学習看護学会等のネットワークを活用して依頼、各機関のホームページからの情報等）

米国、スウェーデン、オーストラリア、スペイン、英国、南アフリカ、カナダ、  
スイス、台湾、チリ、ベルギー、アルゼンチン、ジャマイカの大学の看護教員



## 結果の概要

- 2020年3月のロックダウンに合わせて一時的に臨地実習（学生の受け入れ）を中止した国もあったが、2020年秋からの新学期には計画通りの実習に戻している。  
一部の国、大学では、臨地実習を止めず、計画通りに実施している。  
（感染管理、個人防護具の装着、1病棟での人数制限などあり）
- 臨地の実習を止めた場合も、大学内で対面＋バーチャルのハイブリッド実習を行っていた（主に高機能のシミュレーターを用いたシナリオ・ベースのスキルラボ）
- 教育監督/認証当局が実習について柔軟な対応をするよう、またパンデミック下での実習についての対応方針やガイドライン等を出していた（変更の承認が必要な国もあった）。しかし、多くの国で、実習時間（直接ケア時間）は報告義務があり、厳しく要求されていた。
- （COVID19で医療体制がひっ迫する中）多くの国で、看護学生（主に最終学年）は看護補助者として医療機関に勤務している。低学年では、ワクチン接種の補助などを学習の一環として実施している例もある。米国は学生がワクチン接種（注射）に参加している。
- 教員も、医療機関の支援、ワクチン接種の補助等、さまざまな形で現場を支援していた。





## 米国

**実習**：州や大学（法人が病院を有するか）によって異なるが、ほぼ全米で以下の通り

- 2020年3月－4月（5月卒業式、8月中旬まで夏期休暇）は学内入校禁止。実習は許可されなかった（**防衛具が準備できなかったのが最大の理由**）→シミュレーションとバーチャル実習が実習としてカウントされた（教育当局にカリキュラムの変更申請・許可）
- 学年が開始となる8月下旬には臨地実習を開始（受け入れ先の事情によるが、急性期病院は開始。地域も可能な大学あり。高齢者ケア施設は禁止がある。）。
- 卒業前6ヶ月の学生はコロナ患者にも対応
- 2021年春学期には学生はワクチンを接種。

ハイブリッド教育：オンラインと小グループ対面教育のコンビネーション（CDCガイドラインに則る）

2020年秋から学内での対面演習が実施された





## 米国

### 認証プロセスの変更等：

- （実習が中止された時期）追加したシミュレーションの時間を臨床実習時間の要件にカウントできるように、また、直接ケアの最小時間数などの州の規制が変更された。これは一時的な措置で、臨地実習が再開されてからは適用されていない。

### なぜ学生が臨地実習に行けたのか：

- 事前の学生の健康管理・アセスメント/チェック体制、個人用防護具（PPE：フェイスシールド、ゴーグル、マスクの着用→のちにマスクのみ)の使用
- 受け入れ医療機関によっては事前PCR検査を実施（要求しない施設も多かった）
- 考え方「患者も学生もどこでCOVID19に罹患したかは特定できない。なので、病院で感染が発生しても誰の責任にもならない。感染すれば、学生は（他の職員と同様）自宅で2週間自主隔離。その後、実習に戻る。」  
病棟閉鎖や病院閉鎖はない。

大学側の姿勢：臨地実習をクリアしなければ、卒業させられない（拒む学生はいない）

病院側の姿勢：臨地実習を経験していない学生は採用できない

### 看護学生は（看護師同様）ワクチンの優先接種対象



送り出す卒業生の質の担保に責任がある。地域医療を止めてはいけない。だから演習も実習も止めない。



小児救急科の看護師が、最終学年の看護学生に、適切にPPEを着用する方法と、COVID-19スワブを実行する方法を教えている場面

### パンデミックの最中に最終年度の看護学生を病棟に配置

「夜の7時から学部長らと集まって、バーチャル実習への転換を決め、準備をして、翌朝から学生が実施できるようにした」「湾岸戦争で、一晩で350床の病院ベッドを再編成した経験が役立った」  
「現場で、最前線に立つ先輩ナースたち、そして仕事が終わると家庭に戻って家族のケアをするナースたちの責任感やストレスを教員を通して学生は学び、『自分たちも立ち向かう』という意識が高まった」



米国：大学生は実習の一環として、インターンシップとして、ボランティアとしてCOVID19の現場に出た  
病棟での看護補助、ワクチン接種実施やPCR検査の補助

第1 Semester（学部3年生前期）：プライマリ  
ケアと農村教育の学習でワクチン接種を手伝う準備  
をしています！





学生が行政のコールセンターで実習

学生が地域の医療機関で看護実習

ワシントン大学看護学部は、「臨床実習をしなければ卒業生を出せない」との緊急事態からCDC基金から支援を得て、地域の医療サービスが不足する住民（高齢者や慢性疾患有病者）に対してコールセンターから健康相談を行い、地域の医療機関を看護補助者として支援した。これが実習としてカウントされた。

**米国**：大学での技術演習（スキルラボ）は、PPE（個人防護具）を装着して、学内で継続実施された



COVID19で役立ちたいと希望している第1セメスター（学部3年前期）の学生は、木曜日にスキルラボでトレーニングを受け、将来のワクチンクリニックに備えました。彼らは注射用Edクッションを使用し、生理食塩水を吸い上げて注射の練習をしました。



米国：看護学部生は、継続して地域のワクチン接種クリニックをサポートしている。





## スウェーデン

**演習**：2020年3月～6月（以降、夏季休暇）：学内にクリニカル・トレーニング・センター（シミュレーション・センター）で演習を実施（小グループで対面で実施）

**実習**：2020年、スウェーデン南部（マルメ、ルンド、クリスチャンスタッド大学）

- ✓ 3月～6月：病院と地域でのすべての臨床実習は計画どおりに実施。手術室（2日）と透析病棟（1日）のみがキャンセル
- ✓ 8月～10月：すべての臨床実習は、手術室や透析も含め、計画どおりに実施
- ✓ 11月：手術室と透析、女性の生殖医療のための臨床実習がキャンセル
- ✓ 12月：2週間未満の臨床実習はキャンセル（小児、救急）→臨床実習はラボシミュレーション、病院内で録画された映像、症例ワークショップなどに変更。しかし、2週間を超えるすべての臨床実習は、2021年6月まで計画どおりに実施
- ✓ リンショーピング大学：全期間において、計画どおりにすべての臨床ローテーションを実施
  - ※ 2020年春にCovid19に感染した一部の学生は、夏に臨床実習を完了
  - ※臨床トレーニングセンターでの学習活動は少人数のグループで行われ、学生はサージカルマスクを着用、教師はサージカルマスクとフェイスシールドを使用



## スウェーデン

### 学生の臨床現場での扱い：

※学生は看護スタッフと同等の扱いを受ける（感染した学生はいる。PCRの検査を受け、接触した患者も医療スタッフもPCR検査を受け、学生は1週間の自主隔離後に症状がなければ病棟に戻る。学生が感染して騒ぎになることはない。病棟閉鎖や病院閉鎖はしない。多くのスタッフが感染した場合のみ当該病棟の新規患者の受け入れを止める。）。

※学生もワクチン接種の優先接種対象者（看護教員は市民の後で接種）

### 現場支援：

- 学生は、実習に加えて、希望で実施（病院の看護業務支援、高齢者ケア、ワクチン接種の支援等）
- 教員は通常業務に加え、希望で実施（ワクチン接種の支援等）

### 認証プロセス等の変更：

- クリニカル・シミュレーションも実習として認めるよう柔軟に変更

※医療機関の看護管理者と大学教員とが定期的に話し合いを設定、COVID19下での実習について解決策を話し合い、進めた。



## オーストラリア

実習：州によって異なる。

- ニューサウスウェールズ州では、一度実習は中断されたが、各施設が学生向けにリスクアセスメントのシステム（リスクマネジメントシステム）を立ち上げ、4月から実習再開。以後、計画通りに実施。当局（病院側）「学生は医療看護を担う将来の担い手で、この状況のなかその学びの環境を提供・継続する」と明言

現場支援：

- オーストラリアはCOVID19の感染拡大が大きくなかったこと/感染者数が多くなかったことから、現状で維持できた（特に現場が支援を必要としなかった）。

認証プロセスの変更：

- なし



## スペイン

### 実習：

2020年3月ー7月：臨床実習は中止。学生は大学内でシミュレーション実習を実施

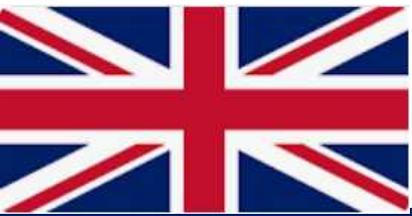
- 2020年10月ー：インターンシップ（臨床実習）は2020-21学年度、監督下で、個人防護具を着用し、病院、地域（プライマリ・ヘルス・センター）等医療機関で計画通り実施
- 最終学年の学生は、病院やプライマリ・ケアセンターなど医療施設にヘルスケアアシスタントとして雇用され、そこで実習と同等の活動を実施（金銭的補償あり）

### 現場支援：

- 卒業前6ヶ月の学生は、（希望で）臨床現場を支援（州政府がこれを保障する制度を策定）
- 教員による現場支援は希望で（ある教員は、平時から週1日は救急車に乗る。COVID19でも救急搬送対応をしている）

### 認証プロセス等の変更：

- なし



## 英国

### 実習：

- 2020年3月－7月：いくつかのNHS病院は学生の受け入れを中止
  - これ以降は、感染拡大があっても臨床実習（学生の受け入れ）は中止していない
- ※学生がCOVID19に感染した場合は、10日間の自主隔離後に症状がなければ実習に戻る。

### 現場支援：

- 3年生（最終学年）はNHS病院に看護補助者として採用（希望で）
- 教員もNHSトラストに派遣されて支援（希望で）

### 規則の変更等：

- Nursing & Midwifery Council が「Covid-19 temporary registration」を出し、学生が通常の学習に戻れるように柔軟に対処するように示している。

<https://www.nmc.org.uk/news/coronavirus/temporary-registration/>



## 南アフリカ

### 実習：

当初は臨床実習は中止（学生を保護するために判断）。制限の度合いに応じて、学生は臨床実習に戻っている。学生が感染した場合の扱いは、他国と同じ（隔離、治療、これらは大学から保障される）。学生は患者と接するので、予防接種対象（接種済み）

代替方法：VULA医療アプリを開発（クリニカルシナリオとヘルスケアチームとのインタラクティブセッションあり。学生が臨床的推論と意思決定の活動にオンラインで参加できる臨床スキル「ブートキャンプ」を開発

### 現場支援：

- 教員は病院の看護を支援（希望で）

### 認証プロセス等の変更：

- 学生の臨床実習時間の不足は記録され、当局に報告され、それを補うように指導される。



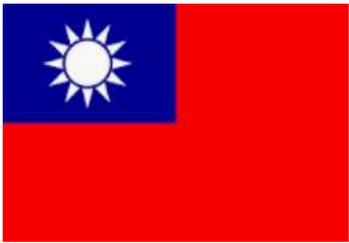
## カナダ

### 実習：

- 病棟が受け入れる限り、計画通り実施（学生はキャンパスには来ないが、臨床実習は実施）
  - ※病棟がコロナ感染者がでて実習できなくなった場合のみバーチャル・シミュレーションを実施、ディブリーフフィングの時間を実習時間とカウントする場合あり。
  - 1グループの学生数は半分にしている（6人から3人）
  - 大学で演習を行うときには、教員は週1回PCR唾液検査を受ける。

実習：

- 計画通りに実施（学生はPPEを付けて病院に実習に行っている）
  - （理由）医療者としての安全行動をPPEをつけて学ぶことができる
- 



台湾



チリ



パキスタン



スイス



ベルギー



ジャマイカ